

(7) 猿田毘古神社

- ・所在地 富士市久沢字川久保七七番地
- ・祭神 猿田毘古神さるたひこのかみ (亦名猿田彦命)
- ・創建 幕末頃 (伝)

本殿内にある祭神石像の刻字は慶應三年 (一八六七) 三月吉日

- ・旧社格 無格社
- ・現等級 なし
- ・境内地 三七五坪 (平成七年二月実測)

登記地積	四四坪
七七番地	二坪
七八ー一番地	一三五坪
七八ー二番地	二九坪
八四ー一ー三番地	一〇二坪
八四ー四番地	一三二坪
八四ー一ー一ー二番地	四四三坪
合計	四四三坪

・社有地 平成六年に寄贈

所在地 厚原字八反田二〇四一

登記地積 一〇九八坪

・本殿 木造流造り 方形石垣積み基壇付き
以前は現在の拝殿内陣内にあったが、大正十五年二月に現在位置に改築移動
屋根は銅板葺き 軒は二重繁樺 妻飾りは大瓶束・笄形・虹梁・墓股 母屋柱は二寸六分角柱 羽目は板張り
両側に脇障子付き外廊下 入口幅二尺扉は両開きの腰板付き格子戸 母屋柱と向拝柱との繋ぎ梁は海老虹梁 向拝柱は二寸角几帳面方柱 柱上に手挟み一手先組物 頭貫は表面唐草模様彫刻 両端に返り獅子木鼻 基壇石垣と正面石段は伊豆石 建屋と基壇の諸元寸法は本殿配置図に記載
・拝殿 木造寄棟造り妻入り 正面に千鳥破風と縄破風二重垂向拝付き 屋根は棧瓦

昭和十二年

葺き 羽目は小波カラー鉄板張り 母屋正面に幅一尺四寸の濡れ縁 左側に一・五坪の下屋出しトタン葺き祭器庫 母屋柱上には組物 母屋奥に幅一間×奥行三尺の内陣跡の円柱二本 柱上に組物 頭貫は唐草模様彫刻付き 両端に木鼻 高欄に透かし彫り墓股 天井は彩色絵入りの板張り格天井 絵図は雨漏りで大部分消滅 床は板張り 前後の戸は腰板付き縦格子両引き戸 正面入口上の壁に「波に千鳥」の鰻絵 向拝柱と母屋柱との繋ぎ梁は海老虹梁 向拝柱は四寸六分角樺材几帳面方柱 柱上に手挟みと組物 頭貫に唐草模様彫刻 両端に像頭形木鼻 正面方向には獅子の木鼻 高欄中央に「波に亀」の方形彫刻板
建屋諸元寸法は社殿配置図に記載
・神座 一社神明型袖付き神座 中に棟札一枚

正面に階段付き 社殿入口五寸幅 扉は両開き板戸
外形寸法 幅九寸×奥行七寸×高さ一尺五寸

〔背面墨書記事〕

大正十五年貳月吉日改遷

世話人 渋谷茂作

石川彦兵衛

勝又啓次郎

・祭神像

玄武岩石像 舟後背浮き彫り立像 持物は右手に経巻、左手に椀 蓮華座と

方形台座付き

神像部寸法

高さ四六cm×幅二四cm×奥行八cm

蓮華座寸法

高さ一〇・五cm×天場径二六cm

台座寸法

高さ一一cm×幅三一cm×奥行二四cm

〔正面右側刻字〕

慶應三丁卯歳三月吉祥日

〔正面左側刻字〕

當所 室伏藤治 建之

・棟札 一枚 神座内に収納 詳細は棟札一覽表に記載

・鳥居 明神鳥居 白御影石造り小叩き仕上げ
束額刻字「奉納 猿田毘古大神」
寸法 高さ三〇三cm×幅二六二cm

〔左右柱部裏面刻字〕

昭和十二年十月建之

寄附人 小林加兵衛

石井源治

石川佐重

・灯籠 左右一對 伊豆石製 四角立て灯籠
コンクリート洗出し製二段型基壇付き
灯籠高さ 一一六cm
基壇下段天場寸法
幅八六cm×奥行八六cm×高さ四五cm
基壇上段寸法

幅五三cm×奥行五三cm×高さ一五cm

〔左右竿部正面刻字〕 献燈

〔左竿部裏面刻字〕

日支事変戦捷祈願

〔右竿部裏面刻字〕

昭和十二年十月 奉納 勝又啓次

・水盤 伊豆石造り 円形椀型 円盤状台石一段付き 床はコンクリート製八角型

水盤外形寸法

径一〇五cm×高さ五三cm

水盤水溜め寸法

径八〇cm×深さ約二五cm

上台石寸法 径九〇cm×厚さ一一cm

下台石寸法 径一九二cm×厚さ一一cm

〔水盤正面刻字〕 奉納

〔水盤裏面刻字〕

昭和十二年十月

寄附人 小林加兵衛

石井源治

石川佐重

・社名標識

檜製角柱 コンクリート台埋め込み

角柱寸法

幅一七cm×厚さ六cm×高さ一四六cm

台部寸法

幅三〇cm×奥行三〇cm×高さ一〇cm

〔表面墨書〕猿田毘古神社

・幟台 長さ八八cmの三・五インチ径ステンレスパイプ 竿は元部が三インチ径のステンレスパイプ 高さ約五m

昭和五十四年二月十一日

ワタナベ タイチ 寄贈

・久沢南区公民館及び老人憩いの家

木造切妻造り平屋建て 屋根棧瓦葺き
外壁ラスモルタル スタッコ仕上げ
ポンプ及び消防器具置場、物置併設
建坪三〇坪

・石碑 右の建設の碑 碑板は磨き黒御影石板
台石は白御影石 基盤はコンクリート

碑板寸法

幅六〇cm×厚さ一二cm×高さ六〇cm

台石寸法

幅八五cm×奥行三五cm×高さ二六cm

基壇寸法

幅九七cm×奥行四八cm×高さ一五cm

〔碑文〕久沢南区公民館

地鎮祭 昭和六十一年七月六日

上棟式 昭和六十一年八月二四日

落成式 昭和六十一年十二月七日

建設委員長 石川澄雄

設計監理 清建築設計事務所

工事施工 (株)勝又組

・掲示板

アルミ枠 ガラス板入り

掲示板寸法

幅一八〇cm×縦一m×厚さ一〇cm

アルミ脚長さ 九〇cm

・題目塔と道祖神 コンクリート製共通基壇に据え付け

題目塔 安山岩自然石

縦一〇二cm×幅三八cm×奥行一〇cm

(碑文) 文政壬午天九月吉日

南無妙法蓮華經 萬部山廿九世

世話人 室伏半蔵

道祖神 安山岩丸彫り地藏形単体立像

下半身はコンクリートで補修

高さ四三cm×幅二九cm×奥行一八cm

(背面刻字) 寛政十年正月十□□□

共通基壇寸法

幅九六cm×奥行七〇cm×高さ三二cm

・祭礼 四月 最初の庚申の日

十月 最初の庚申の日

・氏子 一六戸

・氏子総代 (平成七年二月現在)

勝又啓治 勝又時雄

・由緒

平成四年九月三十日に神社本庁統理に提出され

は、奥に円柱が残っている内陣跡の所に祀られていました。そして、これを機に、庚申堂という名称をやめることになりました。

大正十五年(一九二六)二月、現在の本殿が新たに建立され、御神像などが古い建物の内陣から移されました。この時の世話人は、渋谷茂作・石川彦兵衛・勝又啓次郎と記されています。現在、本殿母屋内に納められている神明形神座は、この時に納められたものです。

平成四年九月三十日には、前記の「神社設立及び規則承認申請書」が神社本庁統理に提出され、宗教法人法による神社として管理されるようになりました。

猿田毘古神社、または猿田彦神社という社名の神社は、今までの調査範囲では富士市には当社一社しかなく、このような神社が、どのような経過でここに祀られるようになったのかは伝えられていませんが、近所に鎮座の山神社や帝釈天社(たいていけんしゃ)の祭神に比べると、大変子供好きな神様として、地元

た「神社設立及び規則承認申請書」の記事によれば、当神社の創建年代は江戸時代末期とされていますが、現在本殿内に祀られている祭神石像が創建時に納められたものとする、その製作年代から慶應三年(一八六七)三月となります。この年代は、伝承の年代とほぼ一致していますので、これを創建年代としてよいのではないかと思います。この御神像の奉納者は室伏藤治で、当社創建に関わった人物と思われます。

富士郡神社銘鑑第二輯(昭和五年十二月発行)によると、当社は、当初は庚申堂と呼ばれていた。当時、この地区の庚申講が当社で行われたためで、現在でも、当社のお祭が庚申の日に行われているのは、その名残と思われます。

棟札(棟札一覽表記載)によれば、明治十五年(一八八二)十月二十九日に、新しい社殿が落成し、御神像などが移されました。この時の祭事は富知六所浅間神社の祠官が勤めています。現在の拝殿は、その時に建てられたもので、御神像など

の人々から慕われてきました。

祭神の猿田彦命は、記紀によると、天孫瓊瓊杵尊(みこととよあしほら)が豊葦原の中国に降臨したとき、天之八衢(あめのやちまた)(分かれ道の所)で尊を迎え、降臨の道案内をした神様です。その時、猿田彦命との交渉に当たったのが豊艷な姿の天宇受売命(あめのうすめのみこと)で、後に二人は結婚し、子孫は、代々芸道の家系とされています。

猿田彦命は、長身、赤ら顔、鼻は高く、眼はほおずきのように、あたかも天狗の面のようにであったと伝えられています。最後には、自分の国土である伊勢国阿耶河(あさか)の海岸で比良夫員(ひらふがひ)に挟まれ、海中に引き込まれて溺死しました。

この神様の主な御利益は、交通安全、海路国土の守護、五穀豊饒、商売繁盛、厄除け祈願、また夫婦和合、安産、長寿祈願などです。

この神を祀ったものには、身近なものとして塞の神や道祖神などがありますが、主な神社としては、椿大神社(三重県鈴鹿市山本町)や猿田彦神社(三重県伊勢市宇治浦田町)などがあります。

① 掲示板
② 石碑
③ ゴミ箱
④ ポンプ, 消防器具置場
⑤ 物置

久沢南公民館
老人憩いの家

水 tank 檣台
H=30cm

空き地
空き地
空き地
畑地

民家
民家
民家

川
川

道路
道路

排水パイプ
コンクリート壁
コンクリート壁
コンクリート壁

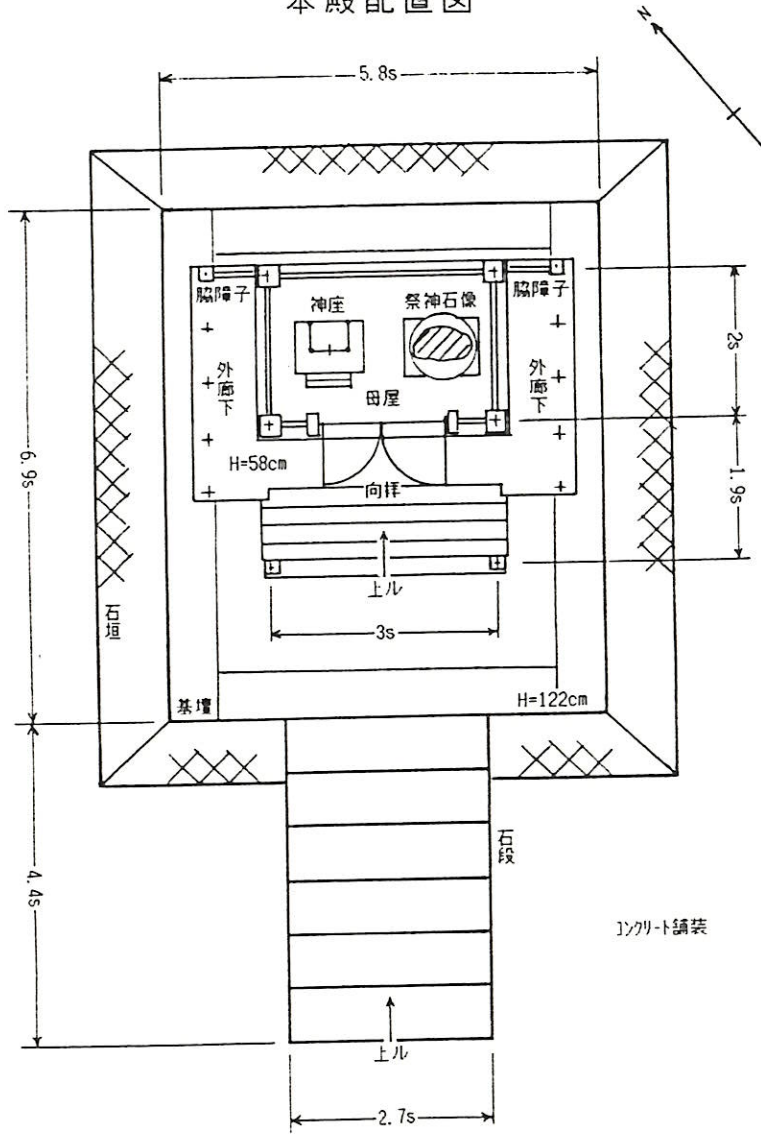
H=90cm
H=35cm

4k
4.5k

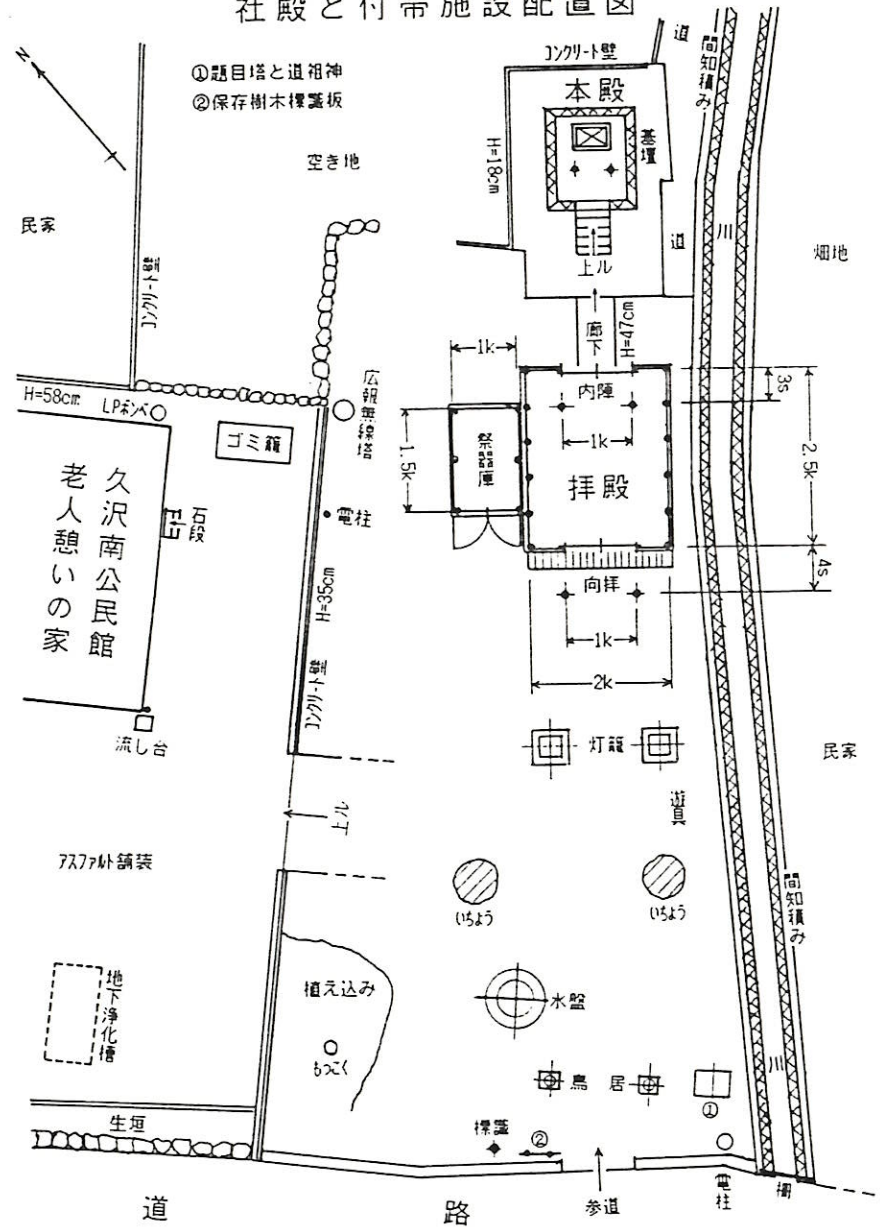
② 170cm
⑤ 143cm

鳥居

本殿配置図



社殿と付帯施設配置図





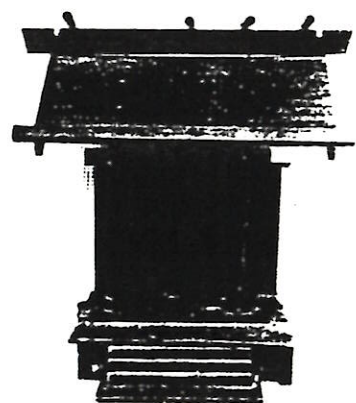
拝殿内部



猿田毘古神社正面



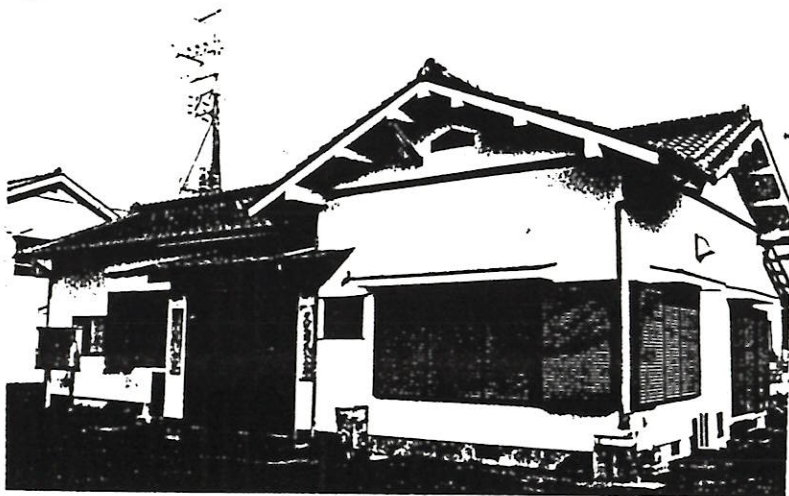
本殿



神座



拝殿



久沢南区公民館



祭神石像



灯籠



題目塔と道祖神



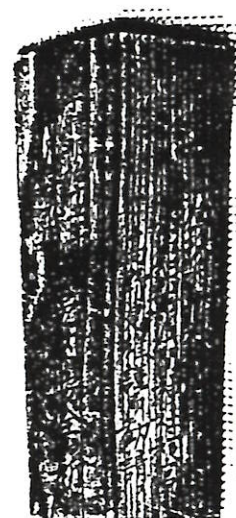
水 盤

棟札一覽表

No.	材質・寸法、および表裏記載墨書		
杉板 縦三一cm×幅二三・五cm	天下泰平 奉齋猿田毘古大神 寶祚長久	傳法村郷社 富知六所淺間神社祠官 高野建雄謹而勸請ス 于時 明治十五年十月二十九日 邑内安全ヲ祈ル	



表



裏